

副腎偶発腫の診療ガイドライン作成に関する研究

研究分担者 上芝 元 東邦大学医学部内科学糖尿病・代謝・内分泌分野教授

研究要旨

平成26年～28年に行った副腎偶発腫の長期予後調査の継続的解析を行った。さらに、日本泌尿器科学会、日本内分泌外科学会、日本内分泌学会と連携し、国内外のエビデンスを収集したうえで診療ガイドライン(案)作成の準備を開始した。すなわち日本内分泌学会の臨床重要課題に採択された。

A. 研究目的

副腎偶発腫についての国内外のエビデンスを収集し診療ガイドラインを作成する。本研究班で平成26年～28年に行った副腎偶発腫の長期予後調査の継続的解析を行う。日本内分泌学会の臨床重要課題に申請を行う。

B. 研究方法

本研究班で平成26年～28年に行った副腎偶発腫の長期予後調査のデータを使用する。日本泌尿器科学会、日本内分泌外科学会、日本内分泌学会と連携し、国内外のエビデンスを収集したうえで診療ガイドラインを作成する。その準備段階として、日本内分泌学会の臨床重要課題に申請する。

(倫理面への配慮)

慶應義塾大学医学部医学部倫理委員会の承認のもと行った(承認番号 20170131)。

C. 研究結果

ホルモン非産生腺腫と考えられる症例でも経過観察期間は3年以上、可能であれば10年間とすべきで、経過観察期間中のCTおよび内分泌学的検査の頻度については、画像上副腎癌が疑われるものでは3ヶ月毎の再検が推奨され、それ以外では初回のみ副腎癌を念頭に6ヶ月後に再検し、以後1年毎3年間以上の経過観察が推奨される。また、副腎偶発腫に脳・心血管障害および悪性腫

瘍を合併する頻度は高く、早期より積極的な疾患管理が必要である(昨年度 Endocrine Journal に first report を掲載した:A nationwide survey of adrenal incidentalomas in Japan: the first report of clinical and epidemiological features. Ichijo T, et al. Endocr J. 2020 Feb 28;67(2):141-152.)。

日本泌尿器科学会からは副腎腫瘍取扱い規約が発行されている。また日本内分泌外科学会からは内分泌非活性副腎腫瘍診療ガイドラインの発行が準備中である。日本内分泌学会の臨床重要課題に採択された。

D. 考察

日本内分泌学会の臨床重要課題に採択されたことから、今後診療ガイドライン作成に向け、CQ 作成や包括的文献レビューを予定する。

E. 結論

副腎偶発異種が日本内分泌学会の臨床重要課題に採択された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

上芝元, 一城貴政:副腎腫瘍の疫学. 別冊日本臨床 内分泌腺腫瘍(第2版):557-565, 2020

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし